

水稻生育診断ほ調査結果と今後の管理

令和6(2024)年6月24日
那須農業振興事務所

- ・ 平年に比べ、分けつ発生が盛ん(茎数が多い)
- ・ 斑点米カメムシ被害軽減のため、畦畔等の草刈りを！

○気象経過 (期間：6月4日～19日)

	北部 (観測：黒磯アメダス)					南部 (観測：大田原アメダス)				
	気温(°C)			降水量 (mm)	日照時間 (h)	気温(°C)			降水量 (mm)	日照時間 (h)
	最高	平均	最低			最高	平均	最低		
R6年	25.9	20.4	15.2	28	125	28.2	21.8	16.9	29	121
平年値	24.7	19.7	15.2	111	81	26.4	20.8	16.6	112	81
差・率	+1.2	+0.7	-0.0	25%	154%	+1.7	+1.0	+0.3	26%	149%

(注) 平年値は2020年～2023年の4カ年から算出
 気温は期間の平均値、降水量と日照時間はそれぞれ積算値
 四捨五入の関係で差等が一致しないことがある

- ・ 前回の調査日以降、両地点とも、最高・平均気温は高く推移した
- ・ 降水量は少なく、日照時間は長かった
- ・ 関東地方の梅雨入りは6/21で、平年より14日遅くなった

○調査結果 (調査日：6月20日、調査基準日：6月22日)

		田植日	栽植	草丈	茎数	葉齢	葉色	SPAD	(参考)
		月/日	密度	cm	本/m ²				生育
			株/坪						診断値
北部	R6年	5/10	58	46.9	434	9.4	4.5	38.2	1,956
	平年値	5/10	61	46.7	389	9.2	4.3	39.7	1,655
	差・率	±0	95%	+0.3	112%	+0.1	+0.3	-1.5	118%
南部	R6年	5/1	62	58.3	715	10.5	4.5	35.7	3,212
	平年値	5/4	61	57.3	549	10.7	4.2	38.1	2,310
	差・率	-3	101%	+1.0	130%	-0.1	+0.3	-2.4	139%

(注) 平年値は2020年～2023年の4カ年から算出
 四捨五入の関係で差等が一致しないことがある

- ・ 草丈は、平年に比べ0.3～1.0 cm長くなった
- ・ 茎数は、平年に比べ北部で112%とやや多く、南部で130%とかなり多くなった
- ・ 葉色は、平年に比べやや濃くなった

※今年の出穂期は前年よりも早い可能性がある(データ無し、農業総合研究センター)

※調査地点：北部は那須町寺子丙、南部は那須塩原市一区町である

○今後の管理

(1) 水管理

- ① 間断かん水未実施のほ場：ほ場ごとに茎数を確認し、間断かん水を始める
- ② 既に実施しているほ場：過剰な茎数とならないよう、間断かん水を続ける

間断かん水を始める目安

- ・ 50 株/坪植→**24 本/株**
- ・ 60 株/坪植→**20 本/株**
- ・ 70 株/坪植→**17 本/株**

【参考】イネの生育ステージと間断かん水

生育ステージ	目標茎数確保後～出穂前	出穂前～出穂後 30 日
水を入れる タイミング	ほ場内の足跡に 水が残るくらい	田面が露出する前 (水が無くなることのないように)

なお、葉色が濃い等生育が過剰な場合やガスが湧く場合は、田面に亀裂が入る程度の中干しが有効。ただし、過度な中干しはほ場の水持ちが悪くなるので注意。

(2) 斑点米カメムシ対策

① ほ場内&畦畔のイネ科雑草の処理

イネ科雑草の実は斑点米カメムシのエサとなるため、雑草が実を付ける前に草刈り等により除去する。

② 殺虫剤による一斉防除

- ・ 斑点米カメムシの飛翔能力は高いため、地域一斉防除が有効
- ・ 近年、カメムシ類の越冬数や発生回数は増加傾向にあるため、複数回の防除が有効



ホタルイの小穂もカメムシのエサとなる

斑点米カメムシ対策実施時期

対策	草刈り	一斉防除
実施時期	目的： <u>ほ場に近づけない</u> ① <u>出穂期 3～2 週間前</u> ② <u>出穂期直前</u>	目的： <u>地域で一斉に叩く</u> ① <u>出穂後 7～10 日後</u> ② ①の 7～10 日後 ※発生数が多い場合は追加防除

- ・ 主な斑点米カメムシの水田への侵入時期と加害方法は下表のとおり

表 栃木県における主要な斑点米カメムシ類の水田への侵入時期と加害

	水田への誘引源		水田内への成虫侵入時期	加害時期	加害部位 ^{※1}	主な被害傾向
クモヘリカメムシ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・周りど時期がずれて（早・遅）出穂した水稻の穂	畦畔のイネ科雑草	・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稻出穂期以降	登熟期	籾の縫合部	屑米 斑点米
ホソハリカメムシ					籾全体	
アカヒゲホソミドリカスミカメ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・水稻の穂		・水田内のヒエ等の出穂期 ・水稻出穂期以降 ^{※2}	登熟初期	籾の頂部	尻黒米 カメムシ黒点米
アカスジカスミカメ	・イネ科雑草（ヒエ等）の穂 ・イヌホタルイの小穂 ・水稻の穂		・水田内のヒエ・イヌホタルイ等の出穂期 ・水稻出穂期以降	登熟後期	籾の縫合部がゆるんだ隙間 籾割部	黒蝕米 斑点米

※1 アカスジカスミカメは主に侵入した成虫が加害。他種は成虫・幼虫（成虫侵入の10日～2週間後頃から発生）が加害。

※2 出穂前の6月頃にも成虫侵入は見られる。



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。

熱中症対策の第一歩！ こまめな休憩、水分補給を行いましょ！